

読解力向上の手立てとしての新聞活用

延岡市立土々呂小学校
講師 吉玉 美保代

1 はじめに

本校は2020年度よりN I E実践指定校となった。また、校内研究では速く正確に読む力を育てる指導法について研究することを通して、読解力を育成することを目指した。特に読解力向上のために語彙力を増やすこと、文章構成を考えたり内容を整理、要約したりすること、自分の考えを表現することに取り組んできた。これらの校内研究の取組との関連を図りながら、新聞を効果的に活用した実践を行った。身近に新聞を置き、新聞に触れやすくする環境を整えるとともに、年度初めにN I E実践計画について、系統性を考えながら学年部ごとで作成し、実践に取り組んだ。

2 本年度の取組

(1) 新聞購読及び閲覧の場の工夫

2021年度はN I E実践指定校としての無料購読を以下のような計画で行った。

新聞社	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
朝日	4年	6年			5年	6年				
毎日		4年			5年		3年		6年	
読売	6年				5年	3年	6年			
日経			○		○		○		○	
宮日					5年 (2部)		4年			3年

新聞を活用する单元等に合わせて配当した。こども新聞については1、2年生に配付した。

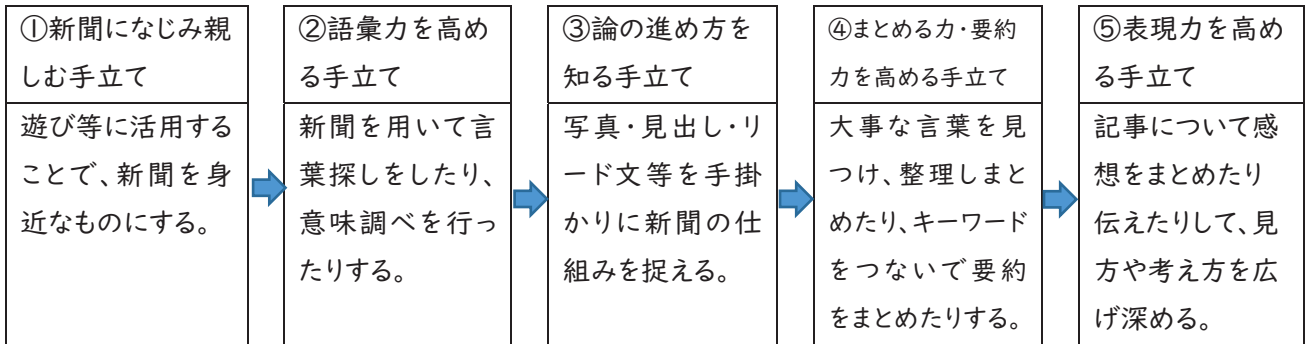
また、子どもたちが自由に新聞を閲覧できるよう、廊下ベンチに新聞を常設したり、壁等にタイムリーな新聞記事を掲示したりして、常に新聞を目にすることができるような環境づくりにも努めた。



(2) 授業等での取組

読解力向上を学校全体で取り組むため、学年の実態に応じて、活動をおおまかに5つの手立てに分け、各学年が工夫し新聞活用を行った。新聞が子どもたちにとって身近なものになるよう、低学年は音楽や図工の学習から取り入れた。また少しずつ手立ての内容を深めていけるよう、单元ごとの活用にとどめず、週末課題や係活動、朝の活動等にも活用し、子どもたちが進んで新聞を手にとることができるような取組を行った。

N I Eの取組イメージ



① 新聞になじみ親しむ手立て

【1年生】

音楽では、新聞を破ったり丸めたり、いろいろな音の出し方を楽しんだ。また、図工「やぶったかみのかたちから」では、新聞紙を破り、その形から様子をイメージし製作した。新聞紙を用いることで、新聞を身近に感じ親しむことができた。

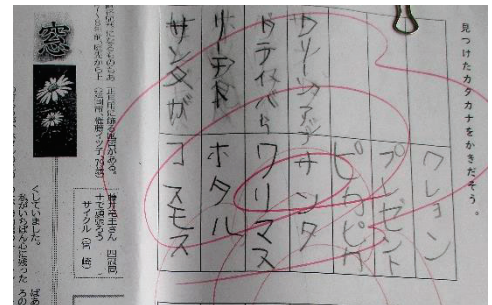


また、朝の活動で毎週月曜日に子ども新聞の記事を紹介した。子どもたちが好きなテーマについて毎週まとめられており、紹介を楽しみにする様子うかがえた。さらに自分たちと同じ小学生が投稿していること知り、自分も挑戦してみたい、と意欲的な姿勢もあった。

② 語彙力を高める手立て

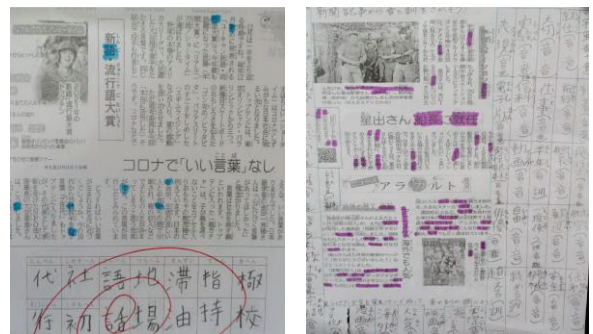
【1年生】

国語では「かたかなをみつけよう」の単元で、新聞からカタカナを探す活動を行った。子どもたちから「いろいろな言葉が新聞に使われていることが分かった」「好きな記事も多くて嬉しかった」「新聞にはいろいろな色が使われていてびっくりした」と話していた。



【3年生】

国語の授業にて活用を行った。「漢字の音と訓」の学習後、新聞記事から音と訓を探す活動を行った。児童が興味をもって読み進めることができる子ども新聞の記事を使ってワークシートを作成した。子どもたちからは「はじめて読む新聞記事だったけど、ふりがながついているので分かりやすかった」「漢字をさがすのが楽しくなった」「難しい漢字、習ってない漢字でも意味がわかるのが『訓読み』なので、見つけることができた」という声があがった。



さらに「へんとつくり」の学習後には新聞記事から、「きへん・さんずい・ぎょうにんべん」の漢字を探す活動も行った。「同じへんの漢字を探すことが楽しかった」「習っていない漢字もあったけど、その意味を考えるのも楽しかった」「新聞記事を読みながら、漢字の勉強もできて楽しかった」という児童からの感想が出た。

③ 論の進め方を知る手立て

【5年生】

国語の単元「新聞を読もう」では、新聞の構成を捉えた後、実際に新聞づくりを行う活動に取り組んだ。新聞の1面をもとに、情報が正確に伝えられ、読みやすくするための見出しや、写真等の工夫について調べた。その後、調べた工夫に留意して、新聞づくりを行った。



④ まとめる力・要約力を高める手立て

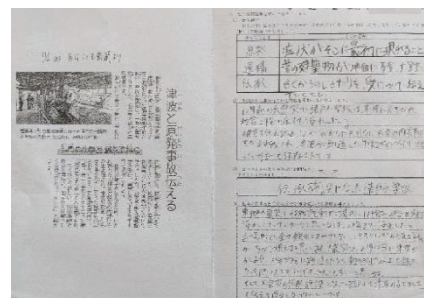
【4年生】

社会科「日本地図を広げて」や国語科の都道府県新出漢字の学習にて活用した。新聞より47都道府県を探し、班ごとに県を見つけたら自分の名前を書いた付箋をはり、表に見つけた数を記録した。また1人で47都道府県全部の県を見つけ、拡大白地図に貼ってまとめていく活動も行った。児童の意欲を高め、休み時間など熱心に活動する姿があった。この活動により、新聞から必要な情報を見つけ出し、整理しながらまとめる力を育てることができた。



【6年生】

常時的な活動として週末課題で新聞スクラップに取り組んだ。教師が選んだ共通記事をもとに、分からない語句の意味調べを行いながら内容を理解し、記事の内容を要約する活動に取り組んだ。記事からキーワードを見つけさせ、時数を制限させて取り組ませることで、要約する力を育てた。また、記事に対する感想や意見を考えたりする活動に取り組んだ。新聞記事の内容を理解し、記事に対して批判的な考えをもち、感想として表現できる児童も多くいた。継続的に取組を行ったことで主張を読み取る力が高まるとともに、子どもたちの社会に対する目の付け方が変化するなど、考え方に深まりも見られた。



⑤ 表現力を高める手立て

【4年生】

係活動の充実として、係活動の一つ「ニュース会社」が子ども新聞を活用し、吹き出し大喜利クラスバージョンを提案した。宮日こども新聞にある「吹き出し大喜利」を紹介後、係活動にクラスバージョンとして取り組み、吹き出しを考え紹介し合う活動にとっても意欲的に取り組む姿があった。この活動により、楽しみながら考える力や伝える力を伸ばすことができた。

3 成果や課題

(1) 成果

学校全体でN I E活動を行うことで、発達段階に応じた様々な活動に取り組むことができた。読み手が興味をもって読めるよう、イラストやカラフルな色遣いがされていることに気づき、また自分の好きな分野の記事がどの面に掲載されているのかも知り、新聞やニュースに興味をもつようになった。また、高学年では、各月に学年に配布される新聞の1面記事に興味をもち、社会的な事象について深く考え、担任に質問する児童もいるため、朝の会の話の中で社会情勢について話をする機会も増えてきた。これまで以上に新聞を身近に感じることができ、子どもたちに新聞の重要性や貴重な情報発信になっていることをより理解できたと感じる。

国語の「ことばの学習」の延長として新聞記事を活用し、新聞に慣れ親しませつつ、記事を読み、新しい情報を知ることの楽しさを感じさせることはできた。

国語科に限らず、他教科等で新聞づくりを行う際に、見出しやリード文の文章、新聞の構成を工夫するようになった児童もおり、読解力の向上の手立てとして活用することができた。

(2) 課題

新聞を活用したスピーチをする際、こども新聞を使って行う児童がほとんどである。発達段階に応じて、子ども新聞以外も興味をもって読めるといい。家庭に新聞がない児童も多く、こちらが意識して話題にしたり提供したりしないと、身近に感じられない児童がいる。

また、読解力向上の手立ての一つとしてN I E活動を行ってきたが、率先して活動してきた児童とそうでない児童との個人差があり、全体として上昇したという結果には至らなかった。一人ひとりに見合ったN I E活動を提案していくことも、読解力向上にむけて必要があるといえる。

さらには、新聞に対する興味関心が湧かない(社会的事象に興味がない)児童もいるため、社会を身近に感じて他人事から自分事として社会を捉えてほしいことが教師としての願いである。子どもたち一人一人が社会の一員として重要な役割を果たしていることを授業だけではなく、学校の教育活動全体を通じて今後も指導をしていきたい。